家庭で神棚をおまつりするのは、その家庭の幸福と安泰を感謝し、

益々の御加護をお祈りするためです。

神様に感謝する心をもった生活は日本古来からの信仰です。

尚、神棚の無いご家庭の場合は、事情により御神札（おふだ）を柱や鴨居などの

高いところにお貼りすることも、大切にする心があれば無礼にはならないでしょう。

神棚をおまつりする場所

神棚をお祭りする場所は、「清らかで明るく高いところ」「家族が拝みやすいところ」ということが最も大切です。

そして神棚の向きは南向き（人は北に向かって拝む）または東向きが良いとされています。

神棚の祭り方

正式な神棚はまず鴨居などを利用して棚を作ります。

棚の中央に神殿をすえ、扉の正面に鏡、左右に榊や灯明を立てます。

榊は神の宿る木、栄える木です。

日本人は古来、森や大木に神が降りて来られると信じてきました。

そのため現在でも神社は森に囲まれていますし、境内には注連縄（しめなわ）をめぐらした御神木が数多くあります。

神棚には青々とした清々しい榊をお上げしましょう。

注連縄は、太い方を向かって右にして掛け、四枚の紙重（しで）をつけます。

注連縄はここの中は神聖な所だという区切りになります。

お神札の順位

お神札を横に並べておまつりするときは、中央が伊勢神宮のお神札（神宮大麻）向かって右が氏神様、左がその他の神社となります。

ひとつに重ねておまつりするときは一番表にお伊勢さま、次に氏神様、最後にその他の神社とします。

お供えとお参りのしかた

神棚には毎朝お供え物（神饌・しんせん）を上げます。

神饌は米・神酒・塩・水です。

米は洗米か、ご飯のお初、水は毎朝の初水をお供えします。

並べ方は、図を参考にしてください。

珍しい物や四季の初物を頂いた時は、そのつどお供えします。

お供えが終わったら朝の拝礼をします。

拝礼の作法は神社にお参りする時と同じ「二拝二拍手一拝」で行います。

二回深く頭を下げ、両手を胸の高さで合わせ二回拍手を打ち、もう一回深く頭を下げます。

特に誕生日などのお祝いのときは、本人を中心にして家族一緒にお参りするのが良いでしょう。

古いお神札の納め方

一年間お守りいただいた古いお神札は、年の暮れに神棚からお下げして、粗末にならぬよう神社に納めます。

そして神棚には新しいお神札をおまつりします。

これは、新年を迎えるにあたり、生き生きとした新しい生命力を神様からいただくためです。

神社では、古いお神札を、左義長などの浄火で焼納します